

街に緩和ケアを

＜退院に向けての準備＞
医師や看護師、ケアマネージャー、薬剤師などが集まり、退院前カンファレンスを実施

往診

在宅療養中の注意点や緊急時の対応などを記載した用紙を手渡し、説明

病棟看護師による訪問看護

退院翌日の電話訪問

病院内の薬剤師による訪問薬剤管理指導



＜A氏の場合＞

- ・退院前カンファレンスを行って、在宅療養にむけて情報交換・情報の共有を行いました。
- ・退院後、毎日、点滴が必要なため、他の訪問看護ステーションと協力して、訪問看護を行っています。



薬剤師による在宅療養支援 (在宅患者訪問薬剤管理指導/居宅療養管理指導)



お薬についての相談
がんの症状に関する相談



自宅での服薬管理支援
(入院中と同等のレベルを実現！)

慢性心不全の緩和ケア ～心臓リハビリテーション・ACP～

高齢化社会を迎えたわが国では、慢性心不全が急増してパンデミックといわれています。慢性心不全の予後はがんよりも厳しく緩和ケアの提供が求められています。近藤内科病院では、慢性心不全に対して心不全基本薬の内服と心臓リハビリテーション（心リハビリ）によって予後の改善を図っています。また同時にACP活動も行っています。

心リハビリとは、心疾患の患者さんが、体力を回復し自信を取り戻し、快適な家庭生活や社会生活に復帰するとともに、再発や再入院を防止することを目的として行われます。

心疾患の患者さんは、心臓の働きが低下し、運動能力や体の調節の働き・認知機能が低下しています。心リハビリで適切な運動を行うことで、筋力や体力が徐々に回復し、以前と同じように日常生活が送れるようになる可能性が高まります。当院では、徳島赤十字病院を中心とした地域連携に参加しており、心疾患の患者さんを受け入れ、積極的に心臓リハビリを実施しております。継続した心リハビリを行うことで、心血管病による死亡率や再入院のリスクが減少して自宅に退院されています。

サロン de リハビリ

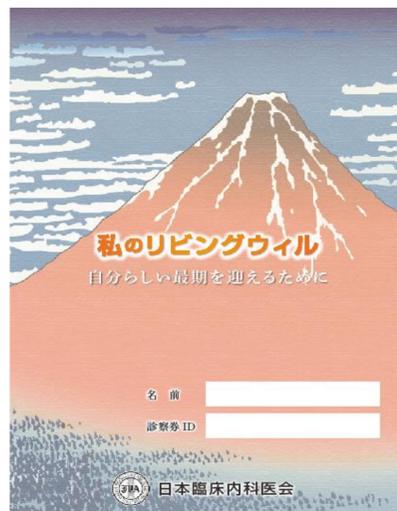
リハビリテーション部＋看護部＋栄養部の多職種連携
入院患者全員にサルコペニア、フレイル予防として集団運動療法、認知機能課題を週2回1時間程度実施している。



地域連携多職種協同



私のリビングウィル



もし、あなたが病気や事故で意識や判断能力の回復が見込めない状態になった場合、どのような治療を望みますか？

下記の5つのうち、ご自身のお考えに最も近いものに○をお付けください。

- 人工呼吸器、心臓マッサージ等生命維持のための最大限の治療を希望する。
- 人工呼吸器等は希望しないが、高カロリー輸液（ゆえき）や胃瘻（いろう）などによる継続的な栄養補給を希望する。
- ③ 継続的な栄養補給は希望しないが、点滴等の水分補給は希望する。
- 水分補給も行わず、最期を迎えたい。
- その他

本人署名 _____ 令和2年 5月 29日

家族署名 _____ 続柄 _____

医師者署名 近藤 孝 職 種 医師

栄養部の
手作りクッキー

心臓リハビリテーション』の対象

- ①急性・慢性心不全
- ②心筋梗塞後
- ③冠動脈インターベーション後
- ④TAVI（経カテーテル的大動脈生体弁植え込み術）後
- ⑤心房細動カテーテルアブレーション術後 など

※心臓リハビリテーションは入院・外来・在宅でも行っています。

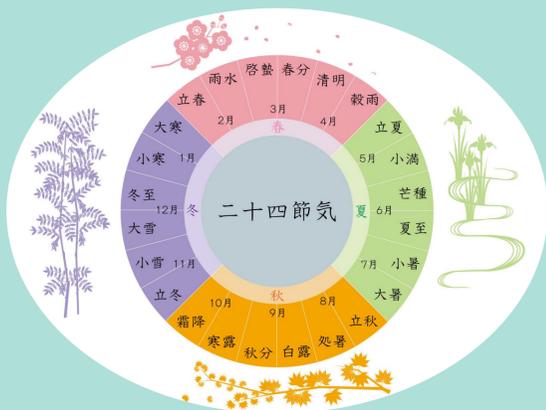
緩和ケアの栄養治療

栄養科 理念

医食同源の考えのもと、患者様個々に応じた食事を提供するために栄養科職員が工夫しています。食材は地産地消を旨に旬の食材を用い、美味しいお料理を楽しんでいただいています。料理を作る心は、思いやりを持って患者様とコミュニケーションを図ることで。

がん末期の患者さんにおいても食事がおいしいと食べることができ、元気になるということが分かりました。高齢化社会での食事は、様々な病気を持つ高齢者がしっかり食べ、運動することでフレイルを予防しようというのが最近の考えになっています。どのような食事がいいのか、具体的にはタンパク質1.3g~1.5g/kg/日を摂取するのが推奨されています。

近藤内科病院 病院食の工夫



二十四節気とは？

二十四節気とは季節の移り変わりを表す指標です。当院の食事は二十四節気の意味を記したランチョンマットを添えて食事を提供しています。

二十四節気で作っている料理をご覧ください。

